

【言葉に対する敬意について】 by J. Konno

『リーダーシップの真髄』(“Leadership is an Art”, Max DePree) という本の「組織が腐り始めた兆候事象」のリストに「言葉に対する敬意を失う」という項目がある。「言葉に対する敬意を失う」とは、「言葉遣いが乱雑になる」とか「誤字脱字」とかだけでなく、「言葉を軽んじる風潮が人々の間に蔓延している」「言葉を『ただの能書き』と考え、本気で発しない、聞いても信用しない。言葉を信頼しない。実行しない」という意味もあるかなと思う。ちなみに、「腐敗の前兆リスト」を全部引用すると……

- ・皮相的になる傾向
- ・幹部の間に暗い緊張関係がある
- ・何かを祝ったり記念行事をする時間的余裕が無くなる
- ・報酬と目的は同一のものだと思えるようになってくる
- ・語り部が語り継いできた話をしなくなる、あるいは、話を理解できなくなってくる
- ・ビジネスはもっと単純なものだよ、と常に誰かが誰かに言い聞かせている（もちろん、複雑で曖昧な状態を建設的に対処することは重要です）
- ・「責任」「サービス」「信頼」などの言葉の意味合いが人によってバラバラになる
- ・問題を作り出すトラブルメーカーの数のほうが、問題を解決する人の数よりも多くなる
- ・英雄と有名人を混同し始める
- ・リーダーが部下を自由にさせてあげようとするよりコントロールしようとする
- ・日々の業務に追われて、ビジョンとリスクについて考えることを後回しにする
- ・ビジネススクール式の無味乾燥なルールを大事にし、貢献、思いやり、優れたもの、美、喜びなどよりも優先させる
- ・顧客のために何かをしてあげてくれることを嬉しいと思わず、手間ひまがとられるから、と嫌がるようになる
- ・マニュアル
- ・会社の歴史や自分の考えを数字で表そうとする（試作品を手にして、「1990年にはこの商品で649万3000ドルの売上を作ろう」という手合いはおなじみでしょう。こういう考え方をすれば、数字を達成するために、あるいは費用に関して言えばある数字に達しないためにだけ計画を立てるようになる。これは破滅への道です）
- ・何とかして一定の財務比率を達成しようとする
- ・リーダーが、人に頼るのではなく組織の枠組みに頼ろうとする
- ・判断、経験、分別に自信をなくす
- ・優雅さ、品格、礼儀を失う
- ・言葉に対する敬意を失う

思い当たるフシがあるような、ないような。